

貧酸素水塊速報 (2019年)

【発行】 ○ 千葉県水産総合研究センター
 神奈川県水産技術センター
 千葉県農林水産技術会議
 内湾底びき網研究会連合会

【協力】 千葉県環境研究センター
 第三管区海上保安本部
 ○ 東京都環境局
 (国)国立環境研究所

○ モニタリングポスト(海上保安庁, 国土交通省 関東地方整備局)
 (今回の速報は“○”の機関の観測データを使用して作成しました)

令和元年8月19日観測結果

貧酸素水塊は、内湾北部から盤洲沖にかけての広範囲に分布しています(図1)。
 8月5日の観測結果に比べ、縦断ラインでの貧酸素水塊は、鉛直方向の厚みが減り規模も18.6%と前回より縮小しています(図2, 3)。
 しかし、内湾北部の海域は強い成層状態が維持されていますので、今後の気象状況によっては、規模が再拡大する可能性があります。

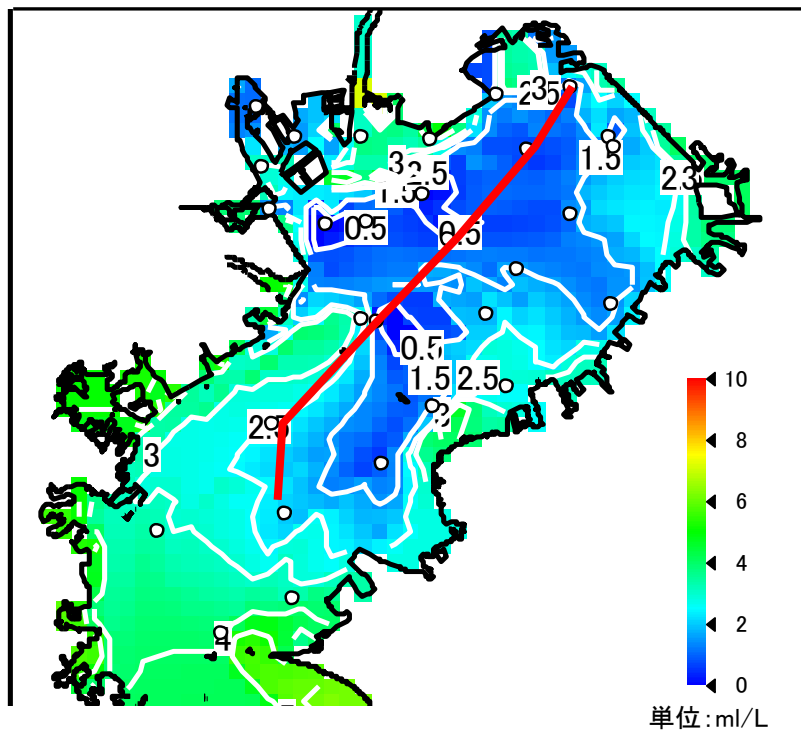


図1 底層の溶存酸素量分布(赤線は縦断ライン)

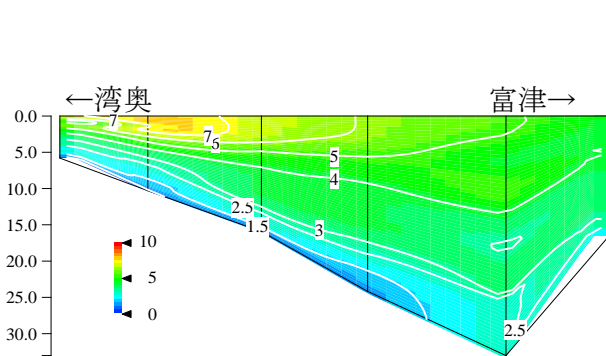


図2 縦断ラインでのDO鉛直分布

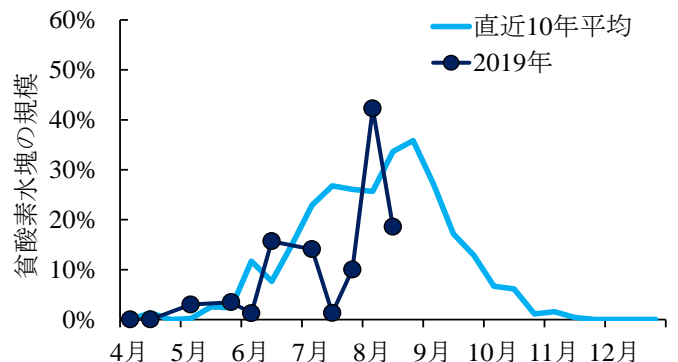


図3 貧酸素水塊の規模
 (左図で貧酸素水塊(2.5ml/L以下)が占める割合)